

旭出学区自主防災の取り組み 〈手作りの自主防災訓練〉



【旭出学区】

■世帯数：3,627 世帯

■人 □：9,659 人

■面積：1.148 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・「自分の身は自分で守る」訓練の実施
安全な部屋に逃げ込み、机の下に入る訓練を実施。
- ・地震の怖さと、家具転倒防止の必要性
手作りの家具転倒防止装置を用いて家具転倒の様子を実演し、地震の怖さと家具の転倒防止の必要性を体感。装置の有無による効果の違いを訴える。
- ・地震災害を想定した実践訓練
本物の消火器で火を消す訓練、「煙道」装置を使って煙を吸わない訓練、「くど・釜」を使った炊き出し、救出救護訓練、救援物資仕分け訓練、応急手当、AED、給水訓練等の実施。
- ・宿泊型避難訓練を実施し、避難設営等を行った。

【住民への PR 方法】

学区で防災訓練の開催案内を作成し、回覧している。

【アピールポイント】

訓練は行政に頼らず、住民の手で全てを実施している。毎年、訓練内容をバージョンアップし、マンネリ化に陥らないようにしている。大地震の発生を予想した、きめ細やかな訓練を実践している。

2 きっかけ、背景

毎年 6 月に防災訓練を実施しているが、年々参加者が減少しているため、住民による「手作りの自主防災訓練」を計画。「自分の身は自分で守る」意識を持つこと、そして「地域で助け合う」ことの重要性を訴え、訓練への参加を呼びかけた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、老人クラブ、スポーツ推進委員、保護司、OBソフトクラブ 計約 60 人

(2) 他団体との協力

区政協力委員会、民生・児童委員会、保健委員会、保護司会、消防団、スポーツ推進委員会、老人クラブ、OBソフトクラブ。

防災ボランティアにも協力を依頼。

4 実施のスケジュール

H24 年 1 月 H23 年に実施した訓練結果の反省、内容の検討

3 月 学区内に防災訓練に対する要望事項等を問いかけ

4 月 前年度の反省に基づき、訓練内容のバージョンアップを検討

5 月 宿泊型避難訓練の参加を呼びかけ

6 月 防災訓練の実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・東日本大震災発生後、防災に対する住民の関心が高まっており、家族ぐるみで 500～600 人の参加があった。
- ・家具転倒防止装置を手作りのことで、訓練に対する地域住民の意識が高まった。
- ・宿泊型避難訓練の継続実施に対する要望が多くあった。

(2) 苦労した点

- ・参加者の確保。特に宿泊型避難訓練の参加者の集まりが心配であった。

(3) 今後の課題・展望

- ・準備・運営を行う区政協力委員が多数交代するため、新たな人への説明・指導に時間が必要。
- ・「宿泊型」訓練も継続し、住民に訓練の重要性と必要性を PR していきたい。
- ・高齢者及び一人暮らし高齢者の参加を促進すること。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・訓練のための訓練ではなく、実践的な訓練を行うこと。
- ・訓練内容は、行政に頼らず自分たちで立案計画し、実施すること。

